

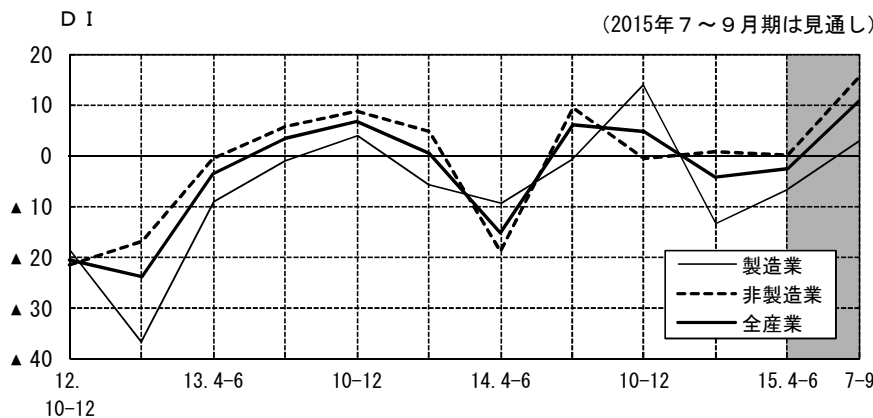
業況概要(自社)

～DIは前期比上昇、製造業で上向きに転じる～

静岡県東部地域における2015年4～6月期の業況判断DI(対前期比)は、全産業で▲2.6(前期▲4.4)となり、前期比で若干の上昇に転じた。製造業では金属製品や一般機械器具でDIが低下したが、食料品やパルプ・紙・紙加工品では改善し、全体で▲6.7(前期▲13.4)と上向き傾向に転じた。一方、非製造業では卸・小売・サービス業では改善に転じたが、旅館・その他宿泊所や建設業では低下したため、全体では0.0(前期0.6)とほぼ横ばいで推移している。

2015年7～9月期の予想DIは、全産業で10.5となり、先行きへの期待感は強い。業種別でみても、製造業2.9、非製造業15.4と今期比で大幅な上昇が見込まれている。

《業況判断指数推移》



全産業DI

年次	DI
12年10-12	▲20.5
13年 1-3	▲23.8
4-6	▲3.8
7-9	3.4
10-12	6.7
14年 1-3	0.4
4-6	▲15.2
7-9	5.9
10-12	4.7
15年 1-3	▲4.4
4-6	▲2.6
7-9	10.5

DI: ディフュージョンインデックス(Diffusion Index)の略。

「上昇、増加、好転」した企業割合から「下降、減少、悪化」した企業割合を差し引いたもので、業況判断を見る指標です。

《業種別天気図》

業況上昇 ← → 業況下降

	製造業	食料品	パルプ・紙・紙加工品	一般機械器具	非製造業	卸・小売・サービス業	旅館・その他宿泊所	建設業
2015年 1～3月期	☁️/☔️	☁️/☔️	☁️/☔️	☀️/☁️	☁️	☁️	☀️/☁️	☀️/☁️
2015年 4～6月期	☁️	☀️/☁️	☁️	☁️	☁️	☁️	☁️/☔️	☁️
2015年 7～9月期	☁️	☁️	☁️/☔️	☁️	☀️/☁️	☀️/☁️	☀️/☁️	☀️/☁️

※2015年1～3月期と4～6月期は前期比、7～9月期は今期比見通し

《調査の概要》

- 調査目的
静岡県東部地域(富士川以東)の景気動向と先行きを予測し、主要産業の実態を把握
- 調査対象企業
静岡県東部地域に立地する企業 502社
回答数266(回答率53.0%)
※業種別企業数は4ページ図表を参照
- 調査方法
当研究所の指定した項目につき、記名式で実績と見通しを記入するアンケート調査
- 調査対象期間
実績:2015年4～6月期
見通し:2015年7～9月期
- 調査時点
2015年5～6月

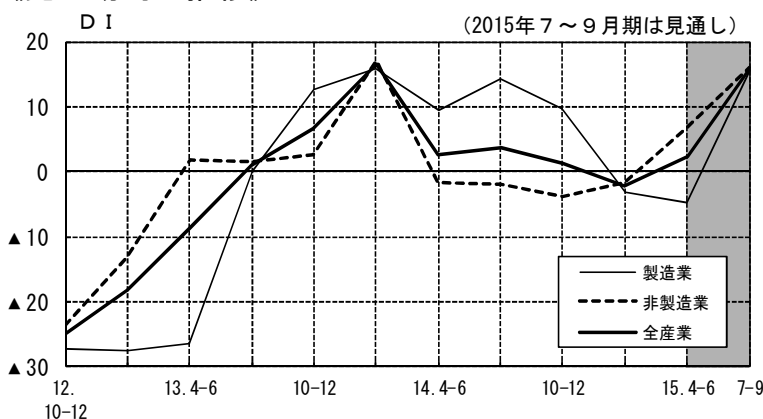
売上動向

製造業は小幅な低下、非製造業では各業種で上向き

2015年4～6月期の全産業の売上動向D I (対前年同期比)は2.3 (前期▲2.2)と上昇に転じ、プラス水準を回復した。製造業では、一般機械器具 (36.8) が前期比で大幅に上昇、食料品 (0.0) やパルプ・紙・紙加工品 (▲6.3) も上昇したが、金属製品 (▲25.0) やその他製造業 (▲18.4) で下降したため、全体では▲4.8 (前期▲3.1) となり、小幅ながら3期連続での低下となった。一方、非製造業は旅館・その他宿泊所 (22.7) で30ポイント以上の大幅な上昇となるなど各業種でD Iが上向いたことから、全体でも6.8 (前期▲1.7) とプラス水準を回復しており、製造業とは対照的な動きを示している。

2015年7～9月期の予想D Iは、全産業で15.8と上昇が見込まれている。うち、製造業では15.5と今期比20ポイント以上の上昇が期待され、非製造業でも16.0と上向き傾向が続く見込みである。

《売上動向の推移》



	前期	今期
食料品	▲ 6.3	0.0
パルプ・紙・紙加工品	▲ 14.3	▲ 6.3
金属製品	6.7	▲ 25.0
一般機械器具	19.0	36.8
その他製造業	▲ 16.1	▲ 18.4
製造業計	▲ 3.1	▲ 4.8
旅館・その他宿泊所	▲ 8.7	22.7
その他小売・サービス業等	▲ 1.0	5.3
卸・小売・サービス業計	▲ 2.5	8.6
建設業	0.0	2.2
非製造業計	▲ 1.7	6.8

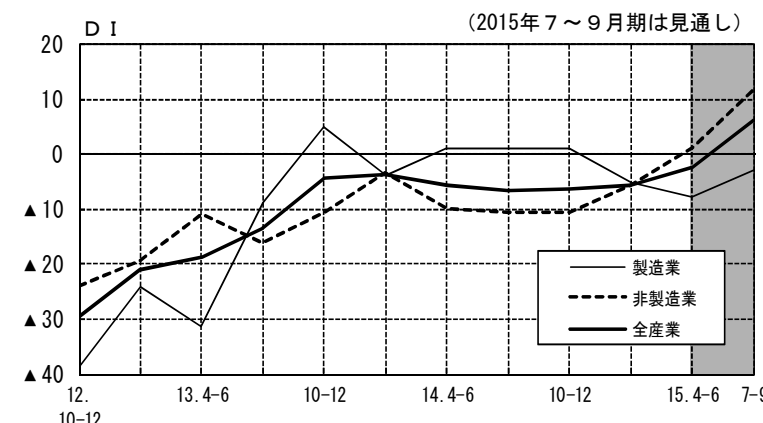
利益動向

製造業は2期連続で低下、非製造業は上向きでプラス水準

2015年4～6月期の全産業の利益動向D I (対前年同期比)は▲2.3 (前期▲5.5)と前期比上昇となった。製造業では、前期D Iが大幅に下降したパルプ・紙・紙加工品 (▲31.3) では回復しているが、同じく前期に下降した食料品 (▲33.3) は引き続き低調、金属製品 (18.8) も若干低下となったことから、全体では▲7.7 (前期▲5.2) となり、D Iは2期連続して低下している。一方、非製造業では建設業 (▲28.3) は低調であるが、旅館・その他宿泊所 (13.6) やその他小売・サービス業等 (12.8) では前期比10ポイント以上上昇したため、全体でも1.2 (前期▲5.7) と上向き、D Iがプラス水準に達している。

2015年7～9月期 (見通し)の予想D Iは、全産業で6.0と回復傾向が持続する見込み。うち、製造業では▲2.9と反転上昇、非製造業は11.7とさらなる改善への期待がかかっている。

《利益動向の推移》



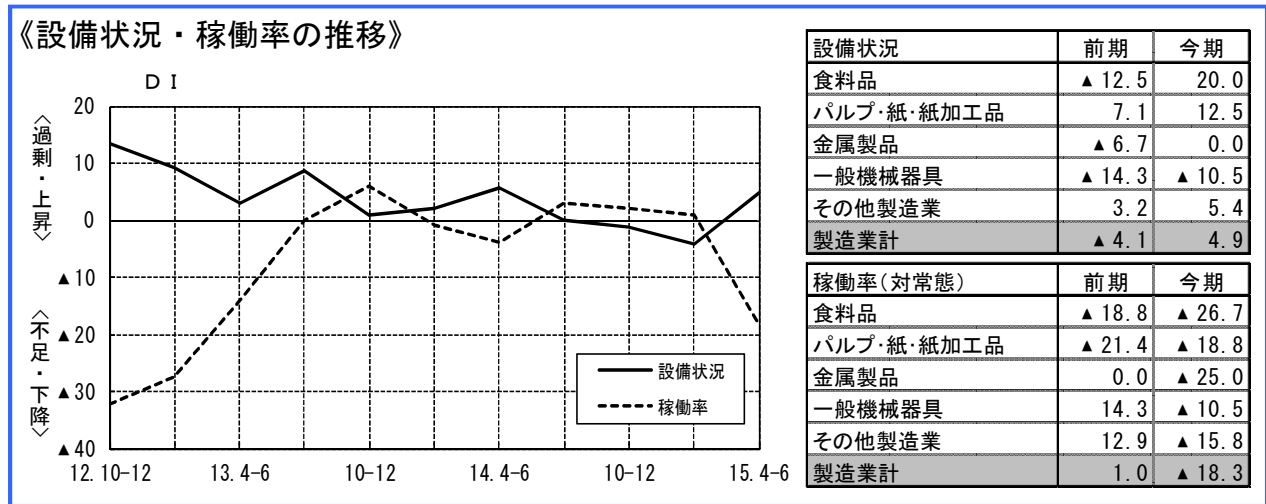
	前期	今期
食料品	▲ 25.0	▲ 33.3
パルプ・紙・紙加工品	▲ 42.9	▲ 31.3
金属製品	20.0	18.8
一般機械器具	14.3	15.8
その他製造業	▲ 3.2	▲ 10.5
製造業計	▲ 5.2	▲ 7.7
旅館・その他宿泊所	0.0	13.6
その他小売・サービス業等	1.0	12.8
卸・小売・サービス業計	0.8	12.9
建設業計	▲ 20.8	▲ 28.3
非製造業計	▲ 5.7	1.2

設備状況・稼働率
(製造業)

設備状況は「過剰」に、稼働率は「下降」にそれぞれ転じる

2015年4～6月期の設備状況DIは4.9(前期▲4.1)と、前期までの低下傾向から上昇に転じ、判断は「不足」から「過剰」となった。業種別では、食料品(20.0)が「不足」から「過剰」に、金属製品(0.0)が「不足」から「適正」に転じた。また、一般機械器具(▲10.5)でも「不足」感が弱まるなど、すべての業種でDIが前期比上昇している。

一方、稼働率DIは▲18.3(前期1.0)と大幅に低下し、判断は前期までの「上昇」から1年ぶりに「下降」に転じた。業種別ではパルプ・紙・紙加工品(▲18.8)で前期比若干の上昇となったが、金属製品(▲25.0)、一般機械器具(▲10.5)、その他製造業(▲15.8)などはいずれも前期比20ポイント以上の下落となり、判断は悪化している。

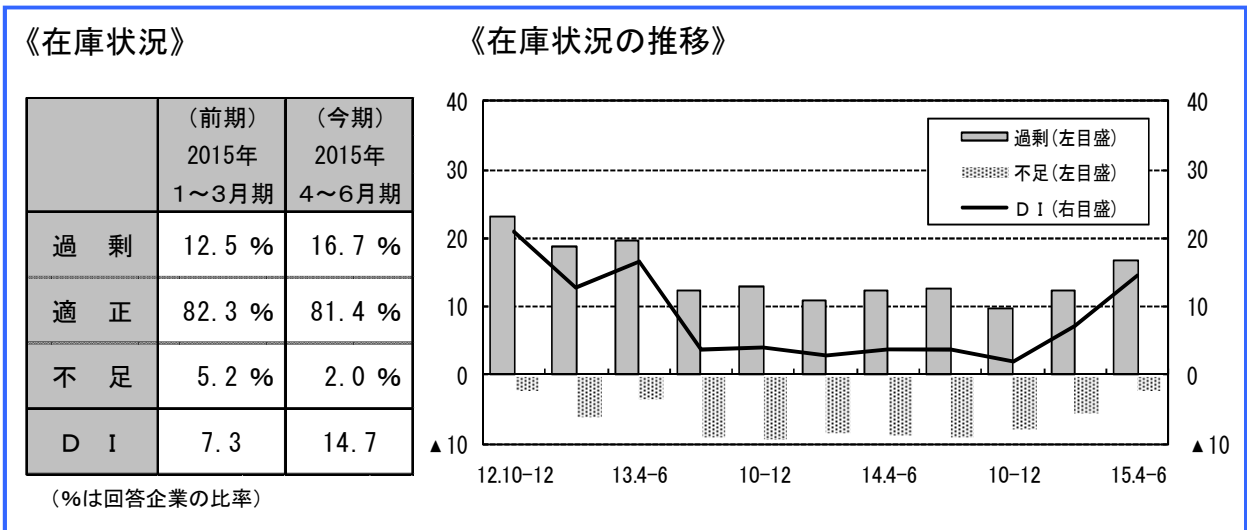


在庫状況
(製造業)

多くの業種で在庫過剰の傾向が強まる

2015年4～6月期の在庫状況(製造業)DIは14.7(前期7.3)と前期比上昇が続き、在庫過剰感が強まっている。全体の回答状況についてみると、「過剰」の割合が16.7%(前期12.5%)と上昇、一方で「不足」は2.0%(同5.2%)と低下しており、DIは2013年4～6月期以来の高い水準となっている。

業種別では、金属製品は7.1と前期と同水準で推移したが、パルプ・紙・紙加工品で18.8(前期0.0)とDIが大きく上昇、一般機械器具(21.1、前期14.3)やその他製造業(18.4、同12.9)でも在庫過剰感が強まった。また、食料品でも0.0(前期▲6.3)と判断が「不足」から「適正」に変化するなど、多くの業種で在庫過剰の傾向が強まっている。



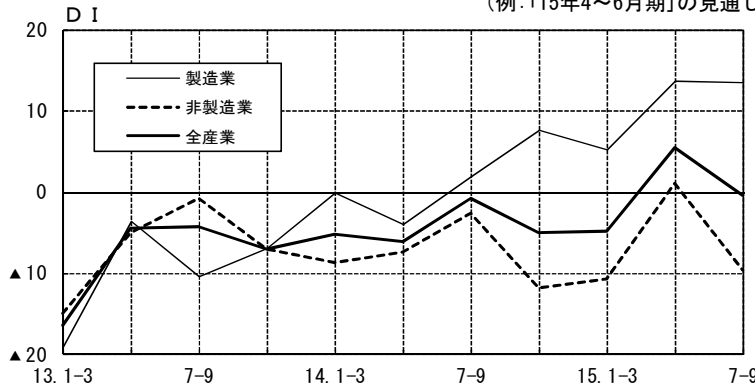
設備資金借入
動向(来期)

製造業では設備投資に前向きも、非製造業では低下に転じる

2015年7～9月期(来期)の全産業の設備資金借入動向(見通し)DIは▲0.4(前期5.6)と低下に転じ、わずかながらマイナス水準となっている。業種別でみると製造業では食料品(0.0)や金属製品(12.5)で前期比低下に転じたが、パルプ・紙・紙加工品(31.3)、一般機械器具(15.8)などはDIが上昇し、全体では13.6(前期13.7)と引続き設備投資に前向きの状態にある。一方、非製造業では旅館・その他宿泊所(▲23.8)や建設業(▲13.3)など各業種でDIが低下に転じ、全体でも▲9.6(前期1.2)と一転して低下した。この結果、製造業と非製造業との動向の差が大きくなっている。

《設備資金借入動向推移(見通し)》

※すべて「来期の見通し」について調査
(例:「15年4～6月期」の見通しは、同1～3月期時点の調査結果による)



	前期	今期
食料品	6.3	0.0
パルプ・紙・紙加工品	28.6	31.3
金属製品	14.3	12.5
一般機械器具	9.5	15.8
その他製造業	13.3	10.8
製造業計	13.7	13.6
旅館・その他宿泊所	0.0	▲23.8
その他小売・サービス業等	1.0	▲4.4
卸・小売・サービス業計	0.8	▲8.0
建設業計	2.0	▲13.3
非製造業計	1.2	▲9.6

経営上の問題点

「原材料・仕入商品の値上がり」の回答比率がやや低下

上位項目についてみると、「受注・売上の停滞・減少」(49.6%)が前期比で1.4ポイント上昇、「人材の育成」(36.5%)は前期とほぼ同水準で推移したが、「原材料・仕入商品の値上がり」(30.8%)は同▲4.5ポイントとやや低下した。一方で「過当競争・製品安」(30.8%)や「生産・販売能力の不足」(20.3%)は前期比2～3ポイント上昇している。

《経営上の問題点(上位8項目)》

(社、%)

	14年10～12月期		15年1～3月期		15年4～6月期		順位 変動
	企業	比率	企業	比率	企業	比率	
1. 受注・売上の停滞・減少	127	49.4	131	48.2	132	49.6	→
2. 人材の育成	80	31.1	100	36.8	97	36.5	→
3. 原材料・仕入商品の値上がり	96	37.4	96	35.3	82	30.8	→
3. 過当競争・製品安	69	26.8	78	28.7	82	30.8	↑
5. 従業員の高齢化	81	31.5	76	27.9	71	26.7	→
6. 人件費の増加	57	22.2	67	24.6	61	22.9	→
7. 求人難	40	15.6	53	19.5	54	20.3	→
7. 生産・販売能力の不足	47	18.3	47	17.3	54	20.3	↑

《業種別: 回答企業数およびDI》

※設備資金は来期の見通し、それ以外は今期実績

業種	企業数	売上動向	利益動向	設備状況	稼働率	在庫状況	設備資金
食料品	15	0.0	▲33.3	20.0	▲26.7	0.0	0.0
パルプ・紙・紙加工品	16	▲6.3	▲31.3	12.5	▲18.8	18.8	31.3
金属製品	16	▲25.0	18.8	0.0	▲25.0	7.1	12.5
一般機械器具	19	36.8	15.8	▲10.5	▲10.5	21.1	15.8
その他製造業	38	▲18.4	▲10.5	5.4	▲15.8	18.4	10.8
製造業計	104	▲4.8	▲7.7	4.9	▲18.3	14.7	13.6
旅館・その他宿泊所	22	22.7	13.6	-	-	-	▲23.8
その他小売・サービス業等	94	5.3	12.8	-	-	-	▲4.4
卸・小売・サービス業計	116	8.6	12.9	-	-	-	▲8.0
建設業計	46	2.2	▲28.3	-	-	-	▲13.3
非製造業計	162	6.8	1.2	-	-	-	▲9.6